

■追悼記事

追悼：上坪宏道先生

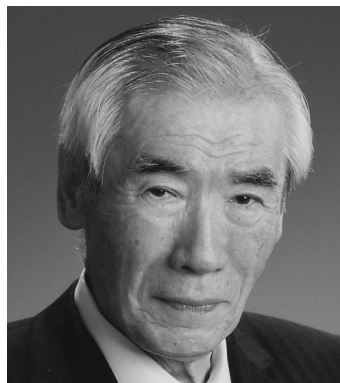
石川哲也（国立研究開発法人理化学研究所 放射光科学総合研究センター長）

上坪宏道先生は、2017年11月13日にお亡くなりになりました（享年84）。先生は、SPring-8 建設を先導し、その完成後九州シンクロトロン光研究センターの所長として、放射光科学の発展に甚大な寄与をなさいましたが、放射光に関わる前には理化学研究所のサイクロトロン研究室の主任研究員として、原子核物理研究の基盤施設を作り上げたことは、皆さまご存知の通りです。長年にわたる、幅広いご活躍をご紹介するのは、筆者の手に余るものがありますが、放射光学会誌での追悼文ということで、放射光関係を中心にご紹介したいと思います。また上坪先生のお近くで日頃教えていただいたことを些かでも若い世代にお伝えすることが、我々の世代の責務かと考えています。

先生は1961年に東京大学理学部物理学科から理学博士学位を授与されたのち、東大物性研究所の大野和郎先生の助手となり原子核物性を研究されました。1965年に理化学研究所に研究員としてお移りになりました。1968年から70年にかけて、フランス・パリ郊外のサクレにある原子力研究センターの外国人研究員として滞仏し、1971年に理化学研究所・サイクロトロン研究室の主任研究員に就任されました。1975年から1981年の間、東京大学原子核研究所教授を兼務され（制度的には、東京大学教授が本務で理研主任が兼務という形ですが）、1981年から再び理研主任を本務とされました。1989年にサイクロトロン研究室主任を辞し、大型放射光施設計画推進部長としてSPring-8 建設に専心されました。1992年から1998年の間、理化学研究所理事をお勤めになりました。

1990年にSPring-8 施設建設が理化学研究所（理研）と日本原子力研究所（原研）のジョイントプロジェクトとしてスタートしましたが、両研究所は大型放射光施設計画推進共同チームを結成し、上坪先生はその実質的なリーダーをお務めになりました。1991年には、高輝度光科学研究センター（JASRI）が設立され、SPring-8 の運営は理研・原研からそこに委託されることになりました。上坪先生は2003年まで、JASRI 理事をお務めになり、2003年に理化学研究所中央研究所の初代所長に就任され、2004年までお務めになりました。2004年に、佐賀県鳥栖市にできた九州シンクロトロン研究センターの初代所長に就任され、2015年までお務めになりました。この間1997年から1998年に、本学会の第9代会長をお務めになっています。

上坪先生は多彩な受章歴をお持ちですが主なものだけご紹介すると、1999年に紫綬褒章の受章、2002年にフランス政府より教育・学術功労勲章の叙勲、2004年に瑞宝中



綬章の叙勲があります。2012年にはJASRIの特別榮譽研究員に推戴されました。また1997年に姫路で開催された第6回SRIの組織委員長としてその成功に大きく貢献なさいました。一方で、IUCrのJournal of Synchrotron Radiationの設立メンバーとして、同誌の発展に尽力され、第6回SRIのプロシーディングをJSRで出版なさいました。

SPring-8 建設プロジェクトでの上坪先生は、原研の大野英雄先生とタッグを組んだ上で、加速器全般の開発リーダーとして熊谷教孝先生、アンジュレータ開発リーダーとして北村英男先生、ビームライン光学系開発リーダーとして筆者を据え、施設建設に当たられました。建設時は、いわゆるバブル崩壊後の不況の最中であり、数次にわたる補正予算によって完成予定の3年前になって予定を一年繰り上げることが議論されました。上坪先生は、そうでなくともしばしば意見が対立する、性格の異なる二つの研究組織をまとめ上げて、計画の前倒しを断行され、しかも当初計画予算1,089億円の範囲内で全計画を完了させました。このon time, on budgetは先生がつねに心がけるよう指導されたものであり、SACLA 建設においても踏襲されました。

SPring-8 は1997年10月に10本の共用ビームラインで共用運転を始めました。その後も、何度かの補正予算も含めて順調にビームライン数を増やしていきましたが、1998年の補正予算で、他の第3世代放射光施設にはない30 m長直線部を用いた長尺アンジュレータビームライン建設と1 km ビームラインの建設がはじまり、それぞれ2000年、2001年に完成したことでSPring-8 は本当の意味で「ユニーク」な放射光施設になりました。これらの建設に当た

っても、上坪先生はユニークなことこそ早くやるべきだということを強調され、強力に計画の後押しをしてくださいました。同様なことが SACLA 建設のときにもあり、このクラスの施設としては考えられないような速さで計画がすすんだのは、まさにそのような上坪先生のスピリットによるものだと考えています。

SPring-8 や SACLA の建設時に上坪先生から教えて頂いた多くのことの中で頭に残っており、かつ年齢を重ねるにつれ実感が増しているのは「若い人の才能に嫉妬してはいけない」というお言葉です。先生は、熊谷、北村、筆者にかなり好き放題に仕事を進めさせてくださいました。そ

して、肝心の判断箇所では的確な議論をしてくださり、議論の中で進むべき方向を示してくださいました。そんな時に良く、「物事がうまく回っているときに、変な手出しはしない方が良い。摩擦が起き始めたら直すことを考えよう」とおっしゃっていましたが、どちらかという短気な私が、この言葉に助けられたことは数え切れないほど多くあります。

先生のご冥福をお祈りし、放射光科学を末永くお見守り頂きますよう祈念いたします。

合掌